

2026年5月24日 説教「御霊による啓示」

コリント人への手紙第一 2章9～16節

今朝はペンテコステの主日です。使徒の働き2章にある、聖霊降臨の出来事を覚えつつ、今朝の聖書箇所を通して、御霊の働きについて学んでいきます。

1. すべてをさぐる御霊（9～10節）

①神の備えて下さったもの（9）「まさしく、聖書に書いてあるとおりです。『目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。』」

神の備えについて、パウロはイザヤ書64:4と65:17からまとめています。つまり、神の備えや知恵は①人が目や耳で感知したことのないもの②人の心に浮かんだことのないもの、だということです。神が愛してくださる者たちに、備えてくださるものは、どれもそのようなものだといいます。つまり、神の備えや知恵は、人間の思い巡らしを遙かに超えているのです。

②御霊によって（10）「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。」

それでは、神は主を求める者に、人間の知を超えた備えや知恵を、いかに与えられるのでしょうか。それは、御霊によって啓示されるということです。啓示という言葉は「覆いを取り除く」という意味があります。見えざる真理、隠されている奥義を、御霊によって明らかにして下さるのです。御霊は、事柄の本質を見極めさせ、創造主の意図をわからせてくださるのです。

③御霊は探り（10）「御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ぼされるからです。」

御霊は天地すべてのことを熟知し、三位一体の神の一位格として、神の深い部分まで深く探った上で、私たちに明らかにしようとしてくださっているのです。

2. 神の霊を受けた私たち（11～13節）

①人の心、神の御心を知る御霊（11）「いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにだれも知りません。」

人の心のことを、本当の意味で知っているのは、その人のうちに住む聖霊です。御霊なる神が、私たちの本質を見極めてくださっているのです。自分のことは自分が一番知っていると考えるのは傲慢です。また、神の御心は、聖霊ご自身だけがそれをご存知であるとあります。神のみこころは、聖霊に教えていただける可能性があるのです。



②神の霊を受けた私たち(12)「ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです。」

ここでは、私たちの受けている霊について説明されています。「私たちは、この世の霊を受けたのではない」とありますが、この「私たち」というのはキリストを信じた者のことです。クリスチャンが受けた霊は、この世の霊ではないとあります。この世の霊とは、悪霊と言っても差し支えないです。信じた者が受けた霊は、神の恵みによって授けられたのです。

③御霊のこばにより(13)「この賜物について話すには、人の知恵に教えられたこばを用いず、御霊に教えられたこばを用います。その御霊のこばをもって御霊のことを解くのです。」

「この賜物」とありますが、カリスマ(賜物)という言葉は使われていません。すなわち12節に記されてある「クリスチャンに授けられた霊について語るには」、ということです。それについては、人間的な知恵によっていくら語っても意味がなく、御霊が示してくださることばによるのです。つまり、御霊のこばによってこそ、御霊のことは解くことができるということです。人間の知恵を越えた御霊の導きこそが鍵が開けられる道なのです。

3. 御霊を受けた人と生まれながらの人(14~16節)

①生まれながらの人間は(14)「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。」

ところが、生まれながらの人間は御霊によって教えられることを好みません。神の御霊の下におかれることを受け入れないのです。生まれながらの人間にとっては、御霊の言葉は愚かに思えるのです。それを理解することもできないのです。もし人が御霊のことを知ろうとするならば、御霊の助けをいただくしかないので。

②御霊を受けている人(15)「御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分はだれによってもわきまえられません。」

生まれながらの人に対し、御霊は受けている人は、神の御霊に属することを受け入れ、御霊の導きによって、すべてのことを探求し、識別する道が備えられているのです。だからこそ、御霊を受けた人は、人々の判断や判定に左右されることはないのです(4:3参照)。

③主のみこころを知る(16)「いったい、『だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。』ところが、私たちには、キリストの心があるのです。」

主のみこころは知ったり、主を導いたりできない、という主旨をイザヤ40:13からの引用しつつ、クリスチャンはキリストを通して、それを知っていくことができるということです。11節とも共鳴してきます。

《結論》今朝はペンテコステ、聖霊降臨日であり、キリスト教会の誕生日でもあります。五旬節に弟子達や人々が集まっていたところ、激しい風が吹いてくるような響きがおこり、家全体に響き渡ったのです。炎のような分かれた舌が現われて、弟子達のうちにとどまりました。彼らは、聖霊に満たされて、他国の言葉で話したのです。人々は驚きまどいました。ペテロは悔い改めを説きました。この日、御言葉を受け入れバプテスマを受けたのは3千人もいて、エルサレムに教会が建て上げられていきました。

この出来事は、キリスト教会のはじめであり、特別であるとはいえ、今日の私たちにもあてはまることです。今朝の記事から考えましょう。

第一に、御霊による啓示についてです。それは9節にあるように、私たちが見た事のないもの、聞いた事のないもの、心に浮かんだ事のないもの、であり、神はそれをクリスチャンと教会に備えてくださるのです。そして、それらは御霊なる神により、覆いを取り除かれ、啓示されていくのです。それをなされる御霊様は、天地の出来事の隅々まで探知されていて、神ご自身の深いことまで熟知されているのです。「私たちの知らない、理解を越えた大いなること」(エレミヤ33:3)を私たちに告げ知らせてくださるのです。あなたが、もし課題をかかえているならば、自分の知恵によらず、御霊によって解いていただきましょう。そして、御霊に働きやすいように、自分自身ができる整えをなしていくことが第一なのです。御霊に自由に働いていただくために、主にゆだねましょう。

第二に、12節にある、「私たちの受けた霊はこの世の霊ではなく、神の霊である」という点です。「あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられるのを知らないのですか」(3:16)。過ちの多い、現実の教会に、神の霊が宿ってくださっているのです。また「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないと知らないのですか」(6:19)とありますが、罪深いクリスチャン各自を宮として、御霊は住んでくださるのです。もったいないことではありますが、遠慮することなく、御霊に自由に働いていただく信仰こそが私たちに許されていることです。

第三に、生まれながらの人は、神の御霊に属することを受け入れず、御霊を受けている人は、すべてをわきまえるという点についてです。悪霊に支配されている人は、御霊の下に生きることを拒否しているからです。キリストを救い主として信じ、御霊の支配に自分をゆだねましょう。もし、あなたがキリストを信じ、御霊を受け入れているならば、すべてをわきまえる態勢は整っているのですから、それを追い求めましょう。「求めよ。さらば与えられん」(マタイ7:7)です。

私は最近、御霊の促しと、その働きを強く感じる出来事を経験しました。御霊は、私たちの教会や一人一人の歩みに具体的にかかわってくださいます。ペンテコステの朝、私たちは聖霊の主が私たちの現在抱えている事に働いてくださると信じ、聖霊に働いていただくよう祈っていきましょう。